

～プランニング～

もっとも重要であり、キャンプを楽しむものにするか、「キャンプ、大変だったねえ。」と苦労話になるか、を分ける項目です。子どもたちの性格や体調（体力）を考えて余裕のあるスケジュールを組んでください。最大のポイントは“子供のペースに合わせる”ことですが、その他には以下のような事項があります。

移動時間：2時間以内

行き先：水辺がなくて、目の行き届くところ

食事：時間をかけずに子どもの喜ぶもの

アトラクション：子供たちが楽しめるもの（安全に）

シーズン：春と秋

タイムスケジュール：ゆとりのあるプランを

子どもたちにとって、行き先がどんなところなのか？というのはたいした問題ではありません。大人の「あそこ行きたい、ここ見たい。」という欲求を優先しないようにしてください。退屈しないうちに到達できる移動距離が理想的ですし、一定時間おきに適度な休憩を挟んで気分転換をしてあげたり、何かおもちゃを持っていっておいて車中で気を紛らわせることも大切です。それから、あまり僻地へ行くこともすすめられません。病院など救急の場合に駆けつける場所が近くにあると安心です。

水辺のあるキャンプ場は、水の事故を引き起こしやすいので、初心者の方は絶対に避けてください。お父さん、お母さんがテントサイトの設営に気を取られているうちに・・・（実際にこういった事故が起きているのです）なんてならないように、最初からこういったところには近づかないことです。また、崖のような危険な地形が近くにあるようなところも避けた方が無難です。最近は九州でも詳しい情報を写真とともに掲載したキャンプ場ガイドが発売されていますから、まずはそういったものを参考にしてキャンプ場を決めるといいでしょう。そういったガイドブックでわからない時は直接キャンプ場に電話で問い合わせ確認してください。また、身近にキャンプの達人がいれば、さらに詳細な情報やアドバイスをくれることでしょう。

メディアを見ていると、アウトドアクッキングと言えば、ワイルドで豪快な料理を作らなければならないようなイメージがありますが、キャンプというものは食事をするのがメインではなく、自然の中で遊んで過ごすことが大切なことなので、食事のプライオリティは下げて、手軽に短時間でできる食事に心がけることです。子どもたちにはまだ

調理の楽しさは理解できませんから。お父さんは張り切るポイントを間違えないように。

キャンプ場についたら、何か遊びをしましょう。キャンプそのものが目的ではなく、それは単なる宿泊の手段です。野外でしかできない遊びを考えて、身体も頭も使って楽しめる遊びをプロデュースしてあげてください。ここで、大切なことはお父さん、お母さんが子どもたちのために“義務で付き合わない”こと、自分も自ら楽しめるような遊びを考えることです。ただし、安全第一ですから、最初から無理はしないことです。何か事故が起こっては意味がありませんから。大自然に囲まれているフィールドよりも子どもが遊べる公園やアスレチックがあるとか、昆虫が捕れるといったような遊びのあるキャンプ場をチェックしたいものです。最近は親も本物の昆虫などを触らずに育った世代だと言います。くれぐれもお父さん、お母さんが昆虫を怖がらないように。

キャンプと言えば、“夏”と思っている人は考えを新たにしましょう。夏は暑いので、熱射病、日焼け（やけど：Sun Burn）あせもなど疾患も多いし、食べ物も腐りやすいです。おまけに蚊などの虫も多いですね。また、暑さをしのぐ対策というのは案外難しく、春や秋などは寒さ（冬ほどは寒くないですが）対策はちょっとしたことで可能ですから、ベストシーズンは“春と秋”と言えます。特に天候の安定して“秋”がおすすめですね。

子供たちとのキャンプはハプニングも当然のキャンプ。だから、ガチガチに組んだスケジュールだと、狂った時のフォローが大変なので、多少のハプニングのための時間を予測したゆとりのあるプランニングをしたいものです。あわただしいのはアクシデントの元、子供中心のタイムスケジュールを組みましょう。また、これは蛇足ですが、よく「うちの子供は生後2ヶ月でキャンプデビューしたんだ。」などと自慢するお父さん方を時々見かけますが、これは単なる自己満足であって、何の自慢にもなりません。自分の家族のペースやスタンスにあったキャンプを楽しみましょう。無理はしないことも重要で、何かあったら即撤収する潔さも要求されます。ストレスがたまるかもしれませんが、大きな事故になるよりは安いものです。